

拝啓 檀信徒の皆様におかれましては益々ご清栄の事とお喜び申し上げます。日頃、眞観寺にお心をお寄せいただき有難うございます。

さて、早いもので今年も年の瀬となり、新しい年を迎えます。

瑞光満ちる平成二十四年元旦、恒例の元朝護摩を観音堂で厳修いたしました。護摩祈願ご希望の方は、左記の「小見眞観寺元朝護摩」をご一読の上、同封のはがきに住所・氏名・年齢・願意を書いてご返送ください。

お申し込みはファックス（〇四八―五五六―二二〇〇）でも受け付け致します。

複数体の申し込みの方は、眞観寺に申込書があります。折り返しお送りしますので、電話〇四八―五五六―二六七八までご連絡下さい。

遠方の方には護摩札を郵送致します。送料は無料です。ご遠慮なくお申し込み下さい。

合掌

平成二十三年十二月

眞観寺住職 中村俊継

檀 信 徒 各 位

小見眞観寺元朝護摩

・ 日時 平成二十四年 元旦 午前十時より

・ 場所 眞観寺観音堂 正観音菩薩御宝前

護摩（じま）とは

護摩は正しくは「護摩修行」と言います。真言密教の修行の一つで、護摩火中に仏を招来し、御仏の真体を観じます。

護摩によって煩惱を焼き浄め、大厄を消除し、家内安全、身体健全、商売繁盛等、開運を祈願します。

護摩の願意について

護摩の願意は自由です。眞観寺の護摩は祈願と滅罪の護摩です。左の代

表的なお願いの他にも自由に考えて申し込んでください。

- ・ 災厄やくよけ消除
- ・ 交通安全
- ・ 身体健全
- ・ 商売繁盛
- ・ 傷病平癒
- ・ 大願成就
- ・ 合格成就
- ・ 就職成就
- ・ 工事安全
- ・ 労災絶滅
- ・ 従業員安全
- ・ 社運隆盛
- ・ 方除
- ・ 火難除
- ・ 盗難除
- ・ 御礼(お願いがかなったときに)
- ・ 家内安全
- ・ 身上安全
- ・ 延命長寿
- ・ 当病平癒
- ・ 心願成就
- ・ 開運満足
- ・ 学業成就
- ・ 工場安全
- ・ 勝利祈願
- ・ 事業繁栄

男女大厄	大 厄			小 厄			厄年早見表
	後厄	本厄	前厄	後厄	本厄	前厄	
昭和27年生まれ	昭和45年生	昭和46年生	昭和47年生	昭和62年生	昭和63年生	平成元年生	男性
	昭和54年生	昭和55年生	昭和56年生	平成5年生	平成6年生	平成7年生	女性

護摩札は一体に付き一願意です。護摩の準備の都合がありますので、成るべく十二月二十八日迄に早めに申し込み下さい。

護摩祈願料は三千円です。祈願料は申込時だけでなく、元旦に持参されても大丈夫です。

尚、遠方の方は護摩札の郵送(送料無料)と併せて銀行振り込みをご活用下さい。

群馬銀行 行田支店 (374) 普通口座 0178339

口座名義 シュウ)シンカンジ

元朝護摩の祈願太鼓

毎年、元朝護摩で、内田賢助世話人が祈願太鼓を勤めます。

年の始まりにあたって、厄除け、安全・息災・繁盛・成就祈願するのにふさわしい太鼓を内田世話人が作調しています。来年の元朝護摩祈願太鼓もお願ひします。

観音堂三百周年

正徳二年（一七一二）年、小針田島家の喜捨により完成した観音堂は来年で三百周年となります。格別の事は出来ませんが、記念事業として次の二つの事業を行います。

一・堂内の畳替え

二・記念念珠の製作

畳替えは年内に行います。記念念珠の製作は男性用が旧仁王門の檜柱、女性用は観音堂前の羅漢松を材料として使います。一匝三千五百円以内になるように努力します。念珠はお盆頃に出来る予定です。今後のお知らせにご期待下さい。（本堂は一六三四年、仁王門は一七三九年建立）



300周年の観音堂

新東墓地

昨年の暮れの便りで新東墓地の造成完了の報告をしました。写真1は昨年の様子、写真2は現在の新東墓地の様子です。七区画が永代使用中と成っています。写真右側に六区画を使って永代供養墓を建立する予定です。

霊園などでは小さな区画の墓地が人気ですが、二〜三代以上継承する場合や、墓地を守る方の性が変わる場合でも、大きな区画の墓地は的確に対応できます。長期的な視点での大型墓地の利点を強調しておきます。

永代使用料等は次のとおりです。

一区画	六尺×七尺	一・一六坪
墓地永代使用料		三十万円
入檀冥加金		二十万円を目安

また、様々な状況に対応できる墓地の造営も検討しています。今後にご期待下さい。



写真1：昨年の新東墓地

写真2：今年の新東墓地

児玉義隆教授来山

十二月十二日月曜日の午後、ほんじしつたん梵字悉曇（梵字を書くこと）が専門の種智院大学の児玉義隆教授が眞観寺本堂内陣の阿弥陀陀羅尼真言を見学に来られます。出流山の天井梵字に比べても非常に良く書けているとの事で、遠路よりお出かけ下さいます。当日は行田市文化財保護課と博物館の学芸員も同席します。



本堂内陣阿弥陀如来真言

苦境の山内整備

毎年、山内整備の報告をしていますが、今年は残念な報告となります。お盆の清掃料をお預りする際に「何時もきれいにしていたで」と、幾らか余分に置いていく方が二十名以上いる中で、今後は清掃が行き届かない状況が続きそうです。

眞観寺は乾電池式のスプレーを使って、除草剤を撒いています。東日本震災と計画停電で単一乾電池が店から姿を消しました。この頃、眞観寺と西明寺を合計して二十本の乾電池を持っていましたが、ちょうど草の生える時期と重なったため、五月上旬には全ての電池を使い切りました。

五月下旬に草が生えだしたので、そこから電池が供給された七月まで、草取りの河辺さんは炎天下に一生懸命草取りをして、肩と喉を痛め、八月上旬には完全に長期休養に入ってしまった。

そういうことは想定していたので、境内清掃の人を二人一組で育成していました。ところが、九月上旬に二人のうち一人が急に病気になってしまいました。三人が二人になったのならまだしも、二人が一人になってしまったので、全く仕事の進捗が見えなくなりました。

「二人が一人になる」ということも考慮に入れていたので、予定通りにシルバー人材センターに応援を頼みました。二名応援に来てくれたのですが、余りの広大さに嫌になったのか、一月で辞めてしまいました。

というわけで、現在は住職他家族で細々と掃除をしています。とはいえ、大抵の土日は法事が入っており、平日も葬儀が無い週の方が少ないので、常に掃除するのは難しい状況です。

通常、予備の予備まで持っていたら、「無駄」と言われる可能性もあり

ます。三組の掃除グループが一気に当てにできなくなると思ってもいませんでした。今、こうやって冷静に文章を書いていると、労働力を逐次投入しています。これでは目標達成が困難になります。この教訓を今後に生かします。

他にも今年は殺虫消毒も不自由しました。平常時は五月下旬と八月下旬に300リタタンクを軽トラックに載せて、重継が組み立てた二馬力のエンジン動噴で大規模に殺虫消毒を行います。ところが、七月に軽トラックが追突され、廃車となりました。そこで、七月二十日に新しい軽トラックを注文したのですが、震災などの部品不足があったようで、納車されたのが十月二十八日でした。その間、毛虫に葉を食べられているのを黙ってみているわけにも行きません。大型の動噴は組立と解体清掃に時間がかかり、緊急対応できないという欠点がありました。そこで、30リタタンクの付いた写真3の小型のエンジン動噴をお盆が終わった八月下旬に買いました。

まずは工具が完備してある西明寺で組立と試験を行い、連続試運転を兼ねて毒蛾(通称電気虫)を殺虫消毒しました。調子が良かったので、週明け眞観寺で消毒を、と思った週末に今度は私の車が追突されました。車は可哀想に二週間の工場送りとなりました。代わりに来た小型のレンタカーでは動噴が入らず、眞観寺の桜の葉が食べられるのをただ見ているだけでした。予定の事が予定どおりと成らず、「これも災害か…」と思うばかりでした。

境内を清潔に保つには不断の努力が必要です。しかし、今回は努力が断絶しがちでした。来年以降は思い切った方策の導入が必要だと痛感しています。一つは起業しようと考えています。檀家さんにも事業家が多くいます。これまで以上に智慧をお借りすることがあるかと思いません。その時はよろしく願います。



写真3: 小型エンジン動噴

般若心経を詠む会を開催しています

九月から十二月まで、観音様の縁日である毎月十八日に般若心経を詠む会を開催しています。

毎回多くの参加があり、また、初めての方の参加もあります。般若心経を詠む会では誰でもお唱え出来るよう、ゆっくり丁寧にお唱えすることを心掛け、皆で般若心経をご唱和しています。腹式呼吸でご唱和する事は、呼吸の活性化と気持ちの和らぎに繋がります。まずは客殿で練習し、最後に観音堂にて般若心経をお唱えして、練習の成果を観音様に報告しています。

今回は講師に愚弟糸井泰丈を予定していましたが、都合が付かず、通常どおりとなります。左の日時で開催します。お気軽にご参加下さい。

日時 十二月十八日（日曜日） 十時～十一時半

場所 真観寺客殿

~~~~~ 来年の干支について ~~~~~

来年は辰歳です。昔の人は方位に十二支を当てはめて表しました。左の図のように辰は四時の方角です。

真観寺の八体佛に、辰年の守り本尊「普賢菩薩」があります。

卯年の守り本尊の文殊菩薩が獅子に乗っているのに対し、普賢菩薩は左の写真のように六牙の白象に乗っています。法華経の女人成仏を説く場面で登場するので、平安中期以降、貴婦人をはじめ女性の信仰を集めました。

普賢菩薩は文殊菩薩と共に釈迦如来の脇侍となっています。釈迦如来の慈悲行を象徴しています。

実際に釈迦如来の慈悲行はどのように描かれているのでしょうか？

全十巻組の本格的な西遊記を見ると、腕白の過ぎた孫悟空はお釈迦様によつて五行山に封印されました。が、封印だけでは気の毒と慈悲心を起こした釈迦如来は「孫悟空が飢えを訴えた時は鉄を食わせ、渴きを訴えた時は溶かした銅を飲ませるように」と指示

して天竺に帰ったそうです。孫悟空自身

が金剛石で出来た「石猿」ですから、鉋物を与えれば良かったのかもしれません。適材適所の慈悲であったといえるでしょう。



辰年の守り本尊

「普賢菩薩」観音堂前の八体佛

